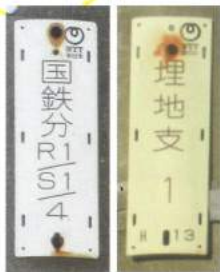




磯子地区 ケーブル名に残る「国鉄」の痕跡



JR磯子駅西口から大岡川分水路方面に向かう線路沿いの小道がある。車や歩行者は産業道路の方を通るので、こちらを歩く人はあまり多くないと思うが、ここに磯子駅の歴史を物語るNTTのケーブル名が残されている。「国鉄分(線)」だ。

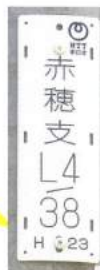
我が国の鉄道は明治5年(1872)、現在の桜木町駅にあった初代横浜駅と新橋駅(現在は「旧新橋停車場跡」)の間で開通した。しかし、大正4年(1915)に横浜駅は高島町に移転。さらに昭和3年には現在の場所に。そのため桜木町駅は行き止まりのままの駅になってしまった。これをなんとか大船まで延伸しようとして昭和39年(1964)、桜木町駅～磯子駅間が開

通した。国鉄根岸線である。

鉄道敷設は根岸湾の埋め立てとセットで行われた。その埋立地に進出してきたのが企業の工場で、そこで働く従業員の通勤や製造品の輸送を根岸線が担うことになった。

「国鉄分」と名付けられたケーブルはそのころ張り巡らされたのだろう。のちに国鉄は民営化されJRとなったが、ケーブル名はそのまま使用されているのである。

磯子地区でもう一つ気になるケーブル名がある。芦名橋周辺で確認できる「埋地」だ。これは一帯が古い埋立地であることを示している。そしてここに花街が形成されていたことも興味深い。



横浜で赤穂とは？ 汐見台地区



NTTの電柱に張り付けられたケーブル名のプレート。ここから地域の昔の情報にたどり着くことができるため、町の歴史を知る入口ともなっているのだが、肝心の電柱がこのエリアにはないので困ってしまう。そう、汐見台地区は架線類を地中化、スッキリした町というコンセプトでつくられているのだ。

今回、久しぶりに域内を歩き回ってみたが、やはり電柱がまったく見当たらない。諦めかけていたところ、隣接する森が丘町内で発見したのが「赤穂」というケーブル名。調べてみると昔の地図や土地宝典に赤穂原という字名が掲載されていることが分かった。

赤穂とは何か。昔の赤穂原は森浅間神社の後ろの高台に広がっていた。森の海岸からこの高台に登っていく坂が南向坂(なこうざか)である。もしかしたら「なこう」が「あこう」に変化したのかもしれない。

高台に登っていく道にもう一つ、汐汲坂というのがある。縄文時代、この一帯で生活する人々が森の海岸から海水を汲み製塩をしていたといわれている。塩といえは赤穂だが、まさかそれとは関係ないと思うが……。

文化で つなぐ 地域の輪



福祉の美味しい情報

区役所に行ったら寄りたい「カフェ ル・シエール」



ここでは障害者の就労を支援するカフェで、「障害者施設自主製品販売運営連絡会」が運営している。「ル・シエール」とはフランス語で天空という意味。文字どおり大きな窓から空を眺めることができる明るいカフェだ。軽やかな味わいと、ナッツを思わせる風味が特徴のコーヒーや各種カレー、ピラフなどの他に手作りクッキーも販売している。 磯子区磯子3-5-1 磯子区庁舎1階

福祉の美味しい情報

磯子の高台にある「青い鳥会館」

昭和47年(1972)、障害のある幼児の療育のために親たちが集まって市内で初めて発足した「さつき会」が前身。現在は「NPO法人アイ・アム」として運営。一人ひとりが心を込めて作ったマドレーヌは抹茶・紅茶・チョコ味の人気商品だ。しかし、現在はコロナ感染防止のため中止。販売しているのはアクリルたわしと足ふきマット。写真は4個入り200円のアクリルたわし。 磯子区汐見台2-3-3



屏風ヶ浦地区 ペリー艦隊を観た「大塚」



屏風浦しおみ

京急の屏風浦駅周辺では「大塚」というケーブル名をあちこちで見ることができる。かなり広範囲で張り巡らされているようだが、この平坦なエリアで大塚とは何だろうか。

NTTのケーブル名によく使われているのが昔の字名だ。そう思って調べてみると、やはり古い地図に「大塚」というのが出てきた。ただし、それは現在の屏風浦駅周辺ではなく、汐見台地区にあった。汐見台3丁目あたりが昔の字「大塚」だ。

その痕跡が団地の一面にある。周辺と比較してそこだけが盛り上がっているのだ。ここが大塚の原点に違いない。嘉永7年(1854)、横浜沖にやってきたペリーの黒船を、多くの

たちがここから見ていたという話も残っている。

そんな経緯と関係があるのかどうか分からないが、ここには三角点が設置されている。(民地なので勝手に入ることはできない)

現在は周辺の建物群に遮られて海が見えないが、根岸湾に入ってくる艦隊を真っ先に観察していたのは、ここに立っていた人々なのではないのだろうか。

もう一つ、駅周辺で見つけたのが「びよぶ駅」という、笑っちゃうようなケーブル名。これは屏風浦駅のことなのだろうが、はたして、こんな短縮した呼び方はあったのだろうか。謎。



福祉の美味しい情報

路地裏にある 「屏風浦食堂 きずな」

白旗商店街から少し奥に入ったところにある。ここは「NPO法人 らいくす」が運営する障害当事者の《働きたい!叶えたい! やってみたい!》気持ちを応援する食堂だ。火曜と金曜のみの営業だが、今は新型コロナウイルスのためイートインは中止し、弁当を販売している(要予約)。この日のメインは豚肉の味噌炒め、玉子焼き、マカロニとポリューミー♪ 納得の450円弁当だ。 磯子区森3-16-8

